

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 23 日現在

機関番号：34302

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26885107

研究課題名(和文) アメリカ、中国、日本における日系自動車部品メーカーのグローバル経営構造比較

研究課題名(英文) Global Management and Comparison of Production/Labor Processes in Japanese Auto Parts Company and in the United States, China, and Japan

研究代表者

根本 宮美子(Nemoto, Kumiko)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：60737617

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：競争が増す自動車産業の中で日系部品メーカーのグローバル生産のケースを取り上げ、経営・雇用・生産の問題と困難を明らかにし、アメリカで日系自動車部品メーカーにて収集したデータ分析を遂行した。アメリカ製造業における歴史、経営、社会学及び労働文献のレビューを行い、さらに、日本とアメリカのハイブリッド経営の成否、日本経営慣行の問題、具体的には、スキル移転と生産性低下の問題、現地従業員と米日マネジメントの関係、経営状態と改善への取り組みという点からデータの分析を行った。さらには品質管理、不良品への対応、生産経営慣行の問題についてジェンダー及び企業犯罪等の視点も取り入れた。

研究成果の概要(英文)：Based on my ethnographic observations at a Japanese auto parts company in the United States, this study examines the workplace problems and dynamics between Japanese/American management and American workers in the plant, focusing on the relationship between the intense profit pressures of the firm and the responses of the management and plant workers. It explores how the various levels of tensions between management and plant workers have shaped the firm's declining performance and productivity, deterioration in product qualities, and gendered unequal division of labor and power dynamics.

研究分野：社会学

キーワード：社会学 経営 労働 自動車産業 現地経営 アメリカ

1. 研究開始当初の背景

熾烈な競争を増す日本の自動車産業において、アメリカ及び中国における日系自動車企業の現地経営は依然重要な生産・販売拠点であり、両国の外交関係、海外投資と雇用の面においても果たす役割は大きいのは周知のところであるが、日系企業の研究自体、1990年代にリーン生産方式やポストフォード主義としてもはやされて以降経営、生産、労働雇用管理面から十分な実証研究が行われてきたとは言い難い状況にある。

製造業全般特に自動車産業にとって、世界各拠点における現地生産、現地経営の拡大生産と販売の需要は依然高い。一方でアメリカにおける自動車産業の日系企業の研究は、1990年代に注目を浴びたトヨタ生産方式やリーン生産方式の生産効率性や経営効果の是非を問う研究、日本優位論に終止する議論に限られてきたという経緯があり、近年のあいつくりコール問題や企業の不正問題等の背後に潜んでいる自動車産業、製造業における国際競争の激化や拠点ごとに異なる現地経営の問題、さらには、現地の労働生産と収益が期待通りあがらないことなどの問題を十分に踏まえた学術研究は少ない。すなわち世界の自動車産業全体の動向と競争と経済収益プレッシャーや将来のグローバル生産の行方を十分に視野に入れた実証研究はほとんどない。日本とアメリカのリコール問題にみる品質維持困難や不正問題、多国間の競争激化が与える自動車関連企業のグローバル生産経営のありかたについて、リーンパラダイムを超えた海外生産のあり方を検討する研究が必要とされている。

2. 研究の目的

1990年代の日系自動車メーカーの米国現地生産の進展以降、研究においても企業の実務慣行においても、日系企業のトヨタ生産システム及びリーン生産方式は、時には、欧米の経営生産システムをしのぐ優秀な生産方式としてアメリカの製造業及びハイテ

ク産業にも導入されるなど高い評価を受け、アメリカのフォード主義に取って代わるといった賞賛を受けたこともあった(Florida and Kenny 1991)。アメリカにおける日系自動車製造が、ポストフォードイズム時代における新たなグローバル生産パラダイムを提示するものであるという肯定的な見方が経営研究の分野で盛り上がりを見せたこともあった(Adler 1999; Pil and MacDuffie 1999)。

一方、リーン生産システムが、グローバル経営として多くの問題があること、従業員の長時間労働や高いストレスや安全面での負担を指摘する批判的研究も多い(Fucini and Fucini 2006; Hampson 2006; Liker, Fruin, and Adler 1999; Lewis 2000; Mehri 2006; 2010)。しかし、現在の世界生産・販売競争の激化の中で具体的に、日本自動車関連企業の現地生産と経営が、どのような問題に直面しどのような対応を強いられているのかについての実証分析は少ないままである。

また、現地経営と生産の問題と自動車部品の品質管理についての関係についても、大企業のリコールや品質管理と安全性の問題がスキャンダルする中で、どのように品質管理の問題と海外生産及び海外経営の問題が関連しているのかについて十分な研究が行われているとは言いがたい状況にある。自動車産業のグローバル競争の激化とグローバル経営が現地生産と現地労働管理にどのような影響を与えているのか。1980年代の日本自動車産業の北米進出以降、進展が遅い日系自動車産業の研究をグローバル競争と経営労働管理の視点から新たに現状問題の把握と分析を行う。

以上を踏まえて、本研究では、アメリカ現地日系企業で収集したデータを社会学、労働経済、経営の視点から分析し、経営構造、労働問題、自動車産業全体の動向、及び今後のハイブリット経営問題を検討、さらに可能であれば中国のケースと比較を行うこととした。

3. 研究の方法

今回の研究に先立ち、申請者はアメリカにて日系自動車部品メーカーに勤務し、経営陣、社員及び生産現場のスタッフに話を聞くなど経営、生産、雇用の様々の問題について参与観察を行いデータを収集している。

今回の研究は、以上のアメリカの日系自動車部品メーカーにおけるデータを社会学、経営学、労働、組織論の視点から進展させることが目的である。特に、現地生産の組織文化慣行、日本的経営のグローバル拠点における適応と日米マネジメントの構造、とくに、雇用慣行の問題、スキル形成と移転の問題、現地生産スタッフとマネジメントのパワーダイナミクス、ジェンダー及び人種関係の問題と生産経営のあり方に焦点を当て分析を行った。まずアメリカ製造業と日米中国の自動車産業に関する社会学、労働、経営における先攻研究を理論と実証成果別に分類し、さらに近年の大手の自動車関連メーカーのリコールや不正問題に関するスキャンダルについても政治、産業構造、企業犯罪の点から内容を整理した。製造業、グローバル企業とジェンダーの関係についても先攻研究を整理し収集したデータを分類した。

4. 研究成果

先行研究のレビュー、理論枠組みの検討、実証データを、ハイブリッド経営、スキル移転、品質管理、労働関係、企業犯罪、ジェンダーの点から整理体系化した。

(1) 1990年代以降アメリカで導入の進んだリーン生産方式の問題点を取り上げる先行研究、日本とアメリカのハイブリッド経営の実情と問題点等についてデータを整理した。具体的には、収集データを経営と雇用問題の点から分類、とくに日本的経営、スキルギャップと移転の困難、現地社員からの抵抗、生産性の低下、経営状態の悪化と改善パターンという具体的経営問題の分析を経営、技術、労働の視点から理論分析を行った。また日系アメリカ自動車関連企業の経営の歴史をさかのぼり、社会学・労働

分野におけるアメリカ製造業・自動車産業の衰退と労働をめぐる状況について 1970年代以降の文献を整理した。

(2) 引き続きリーン生産一般についての論文、グローバル自動車・製造業関連の文献に加えて、経営と組織論からの文献レビューを行い、また、データ分析についても、経営の悪化の複数の要因を、アメリカ人従業員とアメリカ人マネジメント、アメリカ人従業員と日本人マネジメント、アメリカ人マネジメントと日本人マネジメントの3つのグループのダイナミクスに分類し分析した。また、エンジニアとメンテナンスの対立、不良品の処理課程の問題、リーン生産方式のアメリカ工場における機能不全等の問題点に焦点をあて、さらにはジェンダー構造の視点に置いて分析を行った。さらには、日米の企業・組織・経営犯罪についても既存の研究資料を読み、産業別、ジェンダー別に検討し、論文執筆に際して自動車産業及びデータへの使用を検討している。

また、従業員の安全性及び品質管理という点から、アメリカでは製造業、航空宇宙産業、石油産業、炭坑等の分野で、威圧的経営構造、工場従業員の経営側に対する反発、及び男性中心の経営慣行等の特徴が安全性や品質管理の問題に悪影響を与える等の指摘がなされており、これらの観点からもデータを検討した。

今後は、北米日系企業のハイブリッド慣行について、生産性低下、雇用慣行の問題、生産スタッフやエンジニアのスキル形成の日本とのギャップ等の点に注目しながらアメリカにおける日系企業の今後の経営雇用戦略の問題全般を探る視点で論文執筆を行う計画である。

5. 主な発表論文等

[学会発表](計2件)

(1) Kumiko Nemoto. "Adaptation and Competition: Worker/Management Dynamics in a Japanese Auto Parts Company in the

United States.” American Sociological Association annual meeting, Chicago. シカゴ(アメリカ) 2015年8月発表(単著)

(2) Kumiko Nemoto. “Long Work Hours and Gendered Consequences in Japanese Companies,” Center for Japanese Studies, University of California, Berkeley.バークレー(アメリカ) 2014年11月発表(招待講演)

〔図書〕(計1件)

(1) Kumiko Nemoto. “*Too Few Women at the Top: The Persistence of Inequality in Japan*” (Cornell University Press). 2016年8月刊行予定(単著)

6. 研究組織

(1)研究代表者

根本 宮美子(Nemoto, Kumiko)
京都外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 60737617

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし